



建築主：社会福祉法人 六親会  
 設計：森田建築設計事務所  
 施工：株式会社 石川組

細やかな配慮を形・光で表現  
 高齢者生活支援ハウス

所在地：印旛郡本埜村笠神1620

# ヴォーネン<sup>もとの</sup>本埜



ひさしの大きな正面玄関アプローチ

利根川と印旛沼の間に、白鳥の飛来する本埜村がある。  
 「ブレーゲ本埜」は特別養護老人ホーム、短期入所生活介護事業などの居宅サービスの機能も備えた施設である。ここに独立して生活することに不安な高齢者の居住施設として、通所介護事業所と合わせ整備した小規模多機能施設、生活支援ハウスが県内で初めて併設された。

「ヴォーネン」とはドイツ語で家を意味するが、入居者が明るい雰囲気の中で楽しげに過ごせるような空間を意識して設計されたとのことである。

既存建物の北東側に扇を広げた形で配置を考え、敷地を有効に生かしている。デザイン的に工夫され入り口も並列ではないため、両棟が廊下で結ばれてはいるが、独立した建物のように見える。

玄関や窓周辺にはアクセント的な装飾が施され、陰影の効果も生かされた清楚な外観である。

1階は食堂、浴室等共用スペースとし、2階3階は緩やかな円弧状に20の個室が並んでいる。

食堂には共同作業ができる作業台と台所があり、浴室の壁は白鳥のアートレリーフで彩られている。楽しさを演出し、使いやすさへの配慮も現れている。

簡素な材料を用いながら、照明や器材の色・形には細かな心配りがあり、淡いクリームやグリーンの色調で統一さ



中央ホール・談話室

円弧状の廊下（夜景）



れた内装は採光上の工夫と相まって温かみと清潔感を感じさせてくれる。

限られた経費のなかで、居住者や設置者の要望にも良くこたえた施設として高く評価できる。（川上昌子）